

アゲハ（ナミアゲハ）

アゲハチョウ科



もっともよく見られるアゲハチョウです。この写真は、レモンの葉にたまごを産みつけているところです。

さつえい日：2020年9月16日

アゲハ（幼虫）

アゲハチョウ科



ミカンやレモンなど、ミカン科の植物の葉を食べます。4齢(れい)幼虫までは、白黒のからだで鳥のフンに擬態(ぎたい)しますが、脱皮して5齢幼虫になると緑色のからだに変わります。

さつえい日：2020年7月10日、
2020年9月7日

キアゲハ

アゲハチョウ科



アゲハ（ナミアゲハ）よりこい黄色のアゲハチョウです。前の羽の付け根（矢印のところ）でも見分けることができ、裏は黄色、表は黒くぬりつぶしたような色をしています。

さつえい日：2020年9月4日

アオスジアゲハ

アゲハチョウ科



水色のもようが入ったアゲハチョウです。花のみつだけでなく、地面の上で水を飲むすがたもときどき見かけます。

さつえい日：2022年5月5日

モンシロチョウ

シロチョウ科



もっともよく見られるチョウのひとつで、さまざまな花をおとすれます。幼虫は、キャベツやアブラナの葉を食べます。

さつえい日：2021年8月5日

キタキチョウ（キチョウ）

シロチョウ科



黄色いチョウで、はねのうらには細かい黒い点々があります。この黒い点々は、秋に見られるもののほうが、こくはっきりしています。

さつえい日：2022年7月13日

モンキチョウ

シロチョウ科

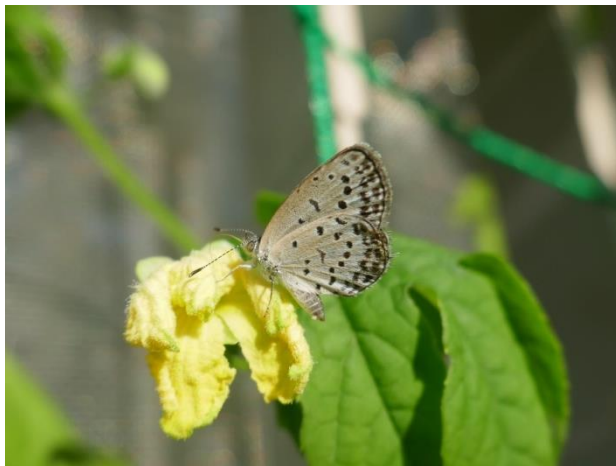


キタキチョウよりひと回り大きい黄色いチョウですが、白っぽい色をしたものもあります。はねのうらには、白い点と黒い点があります。草地で見かけることが多いです。

さつえい日：2023年9月12日

ヤマトシジミ

シジミチョウ科

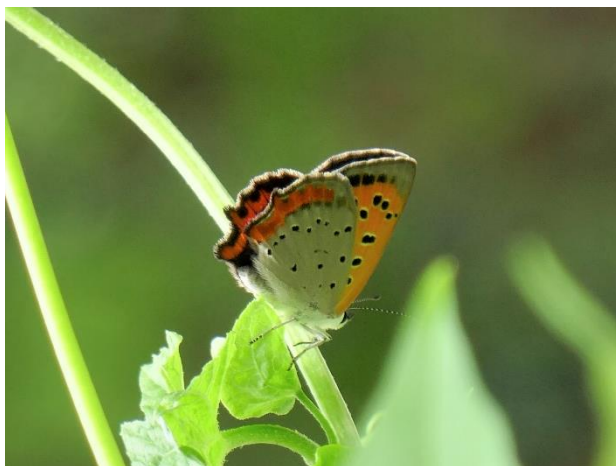


もっともよく見られるシジミチョウです。幼虫はカタバミを食べるので、カタバミの生えているところであればどこでも見られます。

さつえい日：2020年8月28日

ベニシジミ

シジミチョウ科



オレンジ色のシジミチョウです。市街地よりも、草地や河川敷でよく見られます。

さつえい日：2021年8月26日

ツバメシジミ

シジミチョウ科



灰色のはねにオレンジ色のもようがあるシジミチョウです。後ろ羽の、しっぽのように飛び出た部分は尾状突起(びじょうとつき)といい、これをツバメの尾に見立ててこの名前がつけました。

さつえい日：2022年7月7日

ムラサキツバメ

シジミチョウ科



茶色くて地味に見えるシジミチョウですが、メスは、はねを広げるときれいな青むらさき色のもようがあります。

さつえい日：2020年9月15日

ウラナミシジミ

シジミチョウ科



うす茶色に白いしまもようのはねがとくちょうです。秋によく見られます。幼虫は、マメ科の植物を食べます。

さつえい日：2021年10月9日

クロマダラソテツシジミ

シジミチョウ科

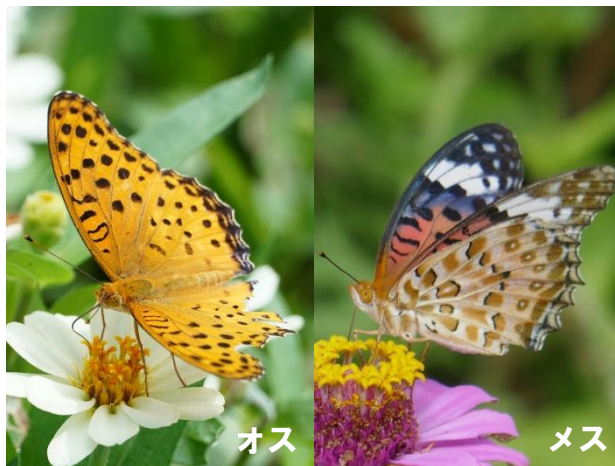


フィリピンや台湾などあたたかいところに住むチョウですが、北は東京まで飛んでくる迷(めい)チョウとして知られています。幼虫は、その名のとおりソテツを食べます。

さつえい日：2020年9月14日、
2020年9月15日

ツマグロヒョウモン

タテハチョウ科

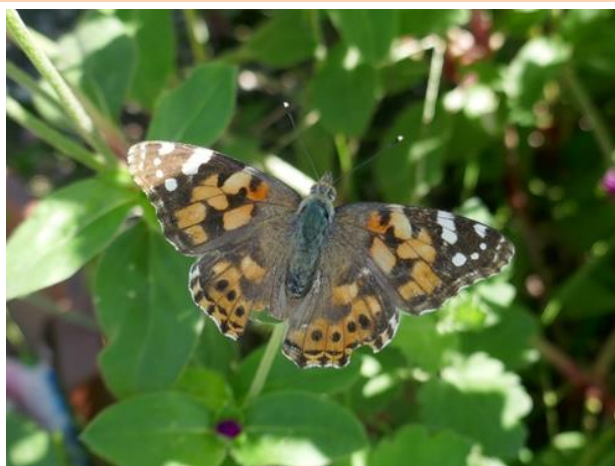


はねの先が黒いので、この名前が付けました。しかし、このもよになるのはメスだけで、オスには、はねの先の白黒のもようはありません。

さつえい日：2023年9月12日、
2022年8月31日

ヒメアカタテハ

タテハチョウ科



ツマグロヒョウモンと似たもよのオレンジ色のチョウですが、大きさはひとまわり小さいです。こちらはオスとメスで、もよにちがいはありません。

さつえい日：2020年9月15日

キタテハ

タテハチョウ科



はねのふちがギザギザの、オレンジと黒のもよりのタテハチョウです。花だけでなく、樹液にも集まります。

さつえい日：2020年9月15日

ホシミスジ

タテハチョウ科



黒地に白いすじが3本入ったチョウです。うらは白と茶色のもようので、黒い点々があります。幼虫はコキヤナギを食べるので、その回りをよく飛んでいます。

さつえい日：2020年9月29日

ヒメジャノメ

タテハチョウ科



大小の目玉のようなもようが並んでいるのがとくちょうです。花にはほとんど集まらず、樹液やくさった果実などに集まります。葉っぱにとまることも多いようです。

さつえい日：2020年10月4日

サトキマダラヒカゲ

タテハチョウ科

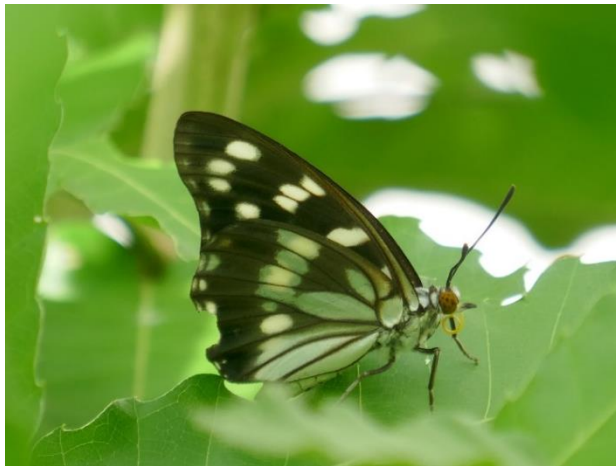


世界の中で、日本にしか生息していないチョウです（日本固有種）。雑木林など、樹木のある場所を好みます。木の幹やかべなどに、とまるすがたがよく見られます。

さつえい日：2022年5月5日

ゴマダラチョウ

タテハチョウ科



黒地に白いまだらもようのはねがとくちょうのチョウです。雑木林など、樹木のある場所を好みます。成虫は黄色い口で樹液をすい、幼虫はエノキの葉を食べます。

さつえい日：2022年7月13日

イチモンジセセリ

セセリチョウ科



8月後半から見かけることが多くなるチョウです。白いもようが一文字に並んでいることからこの名前がつけました。

さつえい日：2020年9月4日

チャバネセセリ

セセリチョウ科

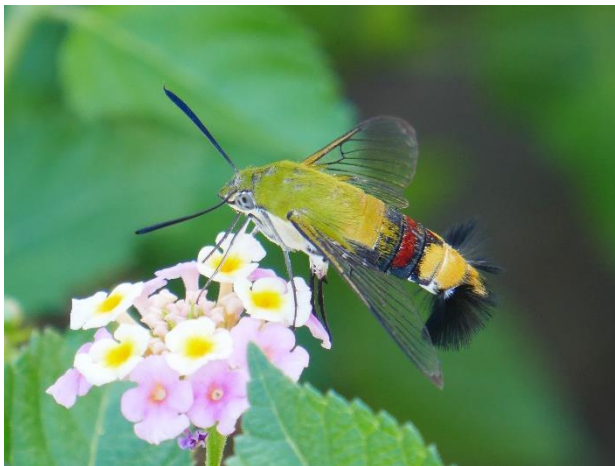


イチモンジセセリによく似ていますが、白い点々が一文字ではなく丸くならぶのがとくちょうです。5月頃から見られますが、秋になるにつれて見るが多くなります。

さつえい日：2022年5月5日

オオスカシバ

スズメガ科



とうめいのはねを、すばやく羽ばたかせて花から花へ飛びまわります。そのすがたはハチドリのようにも見えますが、その正体はガのなかまです。

さつえい日：2022年10月1日

ホシヒメホウジャク

スズメガ科



日本でもっとも小さいスズメガのなかまです。でこぼこで、かれ葉に似たはねがとくちょうです。花のまわりを飛び回って、その蜜をすいます。

さつえい日：2022年8月2日

セスジスズメ（幼虫）

スズメガ科



赤や黄色の目玉のようなもようが一列に並んでいるのがとくちょうです。しっぽのようなものは、尾角（びかく）といい、歩くときは前後に振ります。

さつえい日：2020年9月23日

エゾギクトリバ

トリバガ科



トリバガは、はねがとても細いガのなかまです。ガとは思えないような、とても変わったすがたをしています。

さつえい日：2021年10月12日

シラホシトリバ

トリバガ科



オレンジ色のからだに白い点々が入るトリバガのなかまです。羽の先は3つに分かれます。

さつえい日：2023年9月12日

ギンヤンマ

ヤンマ科



大きいトンボで、頭と胸が黄緑色なのがとくちょうです。写真はオスで、メスには水色の部分がありません。池や小川などの水辺の上を、飛び回っているすがたがよく見られます。

さつえい日：2023年9月12日

シオカラトンボ（♂）

トンボ科



とんぼのめがねは水色めがね♪の歌のように、水色の目とからだを持ったトンボです。からだをおおう白い粉を塩に見立てて、この名前が付けました。

さつえい日：2020年9月4日

シオカラトンボ（♀）

トンボ科



オスとちがい、黄色と黒のからだをしています。その色あいから、「ムギワラトンボ」とも呼ばれています。

さつえい日：2020年9月4日

オオシオカラトンボ（♀）

トンボ科



シオカラトンボを大きくしたようなトンボで、からだ太く、色もはっきりしています。写真はメスで、黒と黄色のからだごとくちょうです。（オスのからだの色は水色です）

さつえい日：2022年9月13日

ウスバキトンボ

トンボ科



黄色～オレンジ色のからだのトンボです。東南アジアなど南の方から海をわたってくると考えられており、お盆のころから多く見られるようになります。

さつえい日：2021年8月5日

アキアカネ

トンボ科



いわゆる「赤とんぼ」のなかまです。夏の間はすずしい山の上で生活し、秋になると平地におりてくることが知られています。写真は、オスとメスがペアになって、水田にたまごを生みつけているところです。

さつえい日：2022年10月15日

ハラビロトンボ

トンボ科



他のトンボとくらべ、お腹が太く平べったいのがとくちょうです。メスは黄色いからだですが、オスは水色のからだをしています。

さつえい日：2022年5月5日

アオモンイトトンボ

イトトンボ科



からだの細いトンボのなかまをイトトンボといいます。アオモンイトトンボは、胸が青緑色で腹の先があざやかな水色になるのがとくちょうです。

さつえい日：2020年9月15日

ハグロトンボ

カワトンボ科



黒いはねを、チョウのようにひらひらと羽ばたかせながら飛びます。オスは金緑色のからだ、メスは黒色のからだをしています。

さつえい日：2021年7月12日、
2022年7月13日

オンブバッタ

オンブバッタ科



頭のとがったバッタその①

メスがオスをおんぶしている姿がよく見られます。小さいほうは子どものように見えますが、れっきとした大人のオスです。

さつえい日：2020年9月27日

ショウリョウバッタ

バッタ科



頭のとがったバッタその②

日本最大級のバッタです。メスは体長8~9cmくらいになります。オスは飛ぶときに「チキチキチキ…」という音を出すため、チキチキバッタとも呼ばれています。

さつえい日：2020年9月4日

トノサマバッタ

バッタ科



メスは6cmくらいになる大きいバッタです。近づくとすぐに気付かれて遠くに飛んでいってしまいますが、いちどに50m以上も飛ぶことができます。

さつえい日：2020年9月15日

マダラバッタ

バッタ科



3cmくらいの大きさのバッタです。この写真では分かりませんが、うしろ足が赤・青・黒のまだらもようになります。

さつえい日：2020年9月4日

イボバッタ

バッタ科



頭や胸のあたりにイボがたくさんあり、ゴツゴツとした印象のバッタです。バッタは同じ種類でも、緑と茶色の色ちがいがいることが多いのですが、この種類は茶色いものしかいないようです。

さつえい日：2020年9月27日

コバネイナゴ

バッタ科



黄緑色にこい茶色のすじが入ったバッタで、イネを食べる害虫として知られています。つくだ煮にして食べる地域もあります。

さつえい日：2020年9月27日

クビキリギス

キリギリス科



あごが大きく、赤色をしています。かむと首がちぎれてもはなさないことから、この名前がつけました。春の夜、草むらから聞こえる「ピーーー」という鳴き声の正体はこの虫です。

さつえい日：2020年9月27日

ウスイロササキリ

キリギリス科



うす茶色のはねをしたキリギリスのなかまです。自分のからだより長い触覚もとくちょうです。「シリリリリリ…」と鳴きます。

さつえい日：2020年9月29日

エンマコオロギ

コオロギ科



日本にすむコオロギの中で最大です。目の上にまゆげのようなものがあり、えんま様が怒ったような顔に見えるため、この名前がついたと言われています。鳴き声は、「ココロココロ…」とあらわされます。

さつえい日：2021年10月2日

ツツレサセコオロギ

コオロギ科



家の庭や、道ばたの植え込みからも「リッリッリッ」と鳴き声がきこえるほど、とても身近にいるコオロギです。しかし、落ち葉や石の下にかくれているため、見つけるのはなかなかむずかしいです。

さつえい日：2021年10月13日

チョウセンカマキリ

カマキリ科



カマで他の昆虫などをつかまえて食べます。チョウセンカマキリとオオカマキリはすがたや大きさがよく似ているため、カマの付け根(ⓐオレンジ色、ⓑうすい黄色)や、後ろ羽(ⓒ黒っぽい、ⓓ透明)で見分けます。

さつえい日：2021年10月2日